



A・B・C館よりなる共和病院全景  
～中央右上-A館、中央右下-B館、中央左-C館～

## 精神病院の変革の時代

2001年に「21世紀を迎えて」と題して、広報誌でお話をさせていただきました。2004年にあたり、この3年間を振り返り、医療法人共和会の歩みに触れたいと思います。

- 2001年 2月20日 社団医療法人から特定医療法人へ変更  
6月29日 福祉用具貸与事業所「なでこ」開設
- 2002年 5月10日 新病棟建築工事開始  
9月11日 内科療養病床28床開設許可を受ける(計80床)
- 2003年 8月10日 新病棟(C館)竣工・機能別病棟の完成  
精神科急性期病棟44床、  
精神科老人治療病棟43床  
内科療養病床48床(完全型) 32床(転換型)  
理学療法、作業療法の充実
- 12月 1日 老人性痴呆疾患治療病棟運営開始
- 2004年 2月 1日 精神科急性期病棟運営開始予定

2000年11月には医療機能評価の認定を受け全国の認定病院の397番目の仲間になり、現在では認定病院も1076病院を超え(H15/11/17現在)、その評価は国の認める公式基準となっております。1995年より始まった「ゴールドプラン」高齢者保健福祉推進10か年計画も2000年より介護保険制度が施行され軌道に乗ってきております。1995年より「新ゴールドプラン」精神障害者ノーマライゼーション7か年戦略が始まり、皆様もご存知のように各地域で「こころの健康フェスティバル」が行われるようになりました。ほぼ7年経った今、社会復帰を目指して全国の約35万床ある精神病床の内、7万2千床の削減が始まりました。本年よりこれまでの長期入院型から社会への復帰という精神医療の大きな転換期を迎えようとしています。特定医療法人共和会は共和病院での精神医療を中心に精神障害の方々へ急性期、慢性期、高齢者など機能別な医療をご提供します。

そして退院後はサテライト診療所(内科、精神科)での外来診療に加え、安心して社会生活をしていただくため、社会福祉法人「憩の郷」の授産所、生活支援事業所と連携し、社会復帰へのお手伝いをするシステムを構築しております。近い将来、生活支援ニーズを定量化し、プランナーが生活支援の必要に応じたプランを立て、安心できる社会生活が出来る様になる事を私は確信しております。

医療法人共和会はこれからも良質な医療をご提供するために職員一同前進する所存でございます。

「やさしい医療と楽しい職場」

2004年1月 特定医療法人共和会 理事長 加藤 仁

## 憩の郷実践発表会

### 『第1回 憩の郷 実践発表会』を終えて

社会福祉法人 憩の郷  
ワーキングスペース おおぶ 池田 智絵

平成15年11月8日(土)、「精神障害者社会復帰施設の役割と機能～憩の郷利用者の活動を通して考える～」というテーマを掲げ、憩の郷の実践発表会を開催しました。

この憩の郷が開所されて4年目を迎え、少しずつではありますが様々な活動を展開し、施設利用者(メンバー)も年々増えてきました。これらの活動を通して憩の郷を周知、理解してもらい、施設の役割や機能を考える機会を提案すること、またメンバーの発表の場として、この実践発表会を企画、開催することとなりました。

はじめに榎本和理事長よりあいさつがあり、通所授産施設「ワーキングスペース おおぶ」、地域生活支援センター「キャンパス」からの実践発表、報告がありました。ワーキングスペース おおぶでは、メンバーが作業内容や活動、利用しているの感想を、パワーポイントを交えながら紹介しました。メンバーは、やや緊張した様子でしたが一つ一つ分かりやすく説明し、会場からの質問にも言葉を選びながら丁寧に応えていたのが印象的でした。キャンパスからの報告では、グループ活動での話し合いを基に、体験してきたことをメンバーがスタッフと共に報告しました。メンバーの実体験に、会場の方も真剣に耳を傾けていました。続いて、憩の郷にボランティアとして協力頂いているボランティアグループ「ひまわり」の皆さんから、憩の郷との関わりを中心に、活動発表がありました。

休憩を挟み、ワーキングスペース おおぶのメンバーを中心として結成された



「劇団半月座」による劇「水戸黄門」が上演されました。通常作業をこなしながらの練習で、通し稽古もほとんどできずに当日を迎えましたが、本番ではメンバーの持ち味が場面ごとに発揮され、会場から何度も大きな拍手を頂くことができました。

当日はメンバーのご家族をはじめ、関係機関、団体の方、地元でお世話になっている方など多くの方々が登場して下さいました。初めての試みで準備等が不十分だった点が多く、当日もスムーズだとは言い難い進行ではありましたが、会場に来て頂いた地域の皆さんに温かく見守られ、改めて多くの方々を支えられていることを実感することができました。また、自分達の活動を伝えたり、自分で決めた配役を演じたり、発表の場には出なかつたけれども通常の活動を支え続けたメンバーの力強さを感じながら、私も負けてははいられないと改めて思うようになりました。

こうして初めての実践発表会は幕を閉じましたが、施設を支えて下さる方々に感謝しながら、今後とも一人でも多くの皆さんに「私たちは元気にやっています!」という姿を知って頂けるよう、様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。

### 実践発表会に参加して

憩の郷実践発表会へは、入院中に看護させて頂いたメンバーさんの様子を見てみたいという気持ちと、かつて一緒に働いていた、先輩職員の赴任先での活躍が見たいという気持ちで見に行かせて頂きました。各発表の中で強烈に心に響いた言葉があります。

\*

●通所授産施設「ワーキングスペース おおぶ」のメンバーさんから

『ここには、何を言っても良い保障がある』こんな安心感を持ってもらえる環境は、メンバーさんにとって、最大の安全基地になっているだろうと感じました。

●地域生活支援センター

「キャンパス」のメンバーさんから

『自分も100パーセント病気でない。健康と言われている人だって100パーセント健康じゃない』確かに、そう。患者さんって、自分にはない健康な部分がある。そういう部分に目を向けていきたいと感じました。

●ボランティアグループ

「ひまわり」のボランティアさんから

『ボランティアの講習の時呉秀三が言った言葉を紹介され、私達はこの取りくみをはじめた。その言葉は…日本にいる精神障害者は二重の苦勞を背負っている。1つは精神障害者に生まれた事。もう1つは地域に理解されない日本に生まれた事』精神障害者に1番寄り添っている私達に何が出来るか考える良い機会になりました。

そして…目玉の水戸黄門。大笑いしました。病室で、苦しんでいた患者様が憩の郷のメンバーさんとして、水戸黄門ご一行に扮して長いセリフを堂々と言い、観客を笑わせている…素晴らしいパワーに笑いと感激で一杯になりました。



この感動を共和病院の患者様や多くの職員に味わって貰いたいという事で、共和病院クリスマス会に来て頂きました。師走の多目的ホールは笑いの渦に包まれました。立ち上げからここまでの苦勞は並々でなかったと思います。メンバーさんとスタッフに心から、拍手を送りたい気持ちでした。

平成15年度  
**こころの健康  
 フェスティバルあいち**



平成15年10月4日(土)に津島市文化会館にて開催されました。このフェスティバルは、ノーマライゼーションの理念のもと、地域住民が心の健康への関心を高め、心の健康の保持増進を図るとともに、精神障害者に対する正しい理解を深めるため、そして精神障害者の自立と社会参加の促進を目的に、愛知県主催により毎年開催されています。当日は作業所や様々な地域関係者の参加にて、多くの催し物が開催され、地域住民を含め多数の参加があり、とても盛況に行なわれました。午後からは「やさしい街、やさしい人」というテーマで、女優の石井めぐみさんが講演されました。



併せて、精神保健福祉に関する功労者として、愛知県知事表彰9名と愛知県精神保健福祉協会会長表彰9名の表彰が行われました。知事表彰は多年にわたり精神保健福祉の向上に寄与された方の功績を称えたもので、この度当院院長であります榎本和が愛知県知事表彰を受けました。これは長年にわたり、精神保健福祉に携ってきたことへの評価であると、感謝しております。今後とも共和病院として精神保健福祉の向上に努めていきたいと思っております。このような機会を通して、地域の方々が精神障害者の理解を深め、共に生きていく社会になっていくことを願っています。

## 餅つき大会

### 毎年恒例

の餅つき大会を、平成15年12月10日に行いました。この餅つき開会にも病院の進化の歴史と同じく長い歴史があります。何時から始まったのか、それは私にも確かな記憶がありません。今を遡る30数年前頃は日程も今とは違い12月28日か29日で一年の最後の最後の大行事でした。会場は現在C館がある場所で、以前は運動場があった場所です。その運動場に電を作り、餅米を蒸し、朝から一日中餅つきをしていました。その餅は患者さまの正月の雑煮用や飾り餅としていました。また今ほど職員の数も多くなく、患者さんの中からも餅つき隊が結成されていたのを思い出します。そんな餅つきが数年続きましたが、患者さまの事故防止の配慮から正月の雑煮がやがて中止になり、規模が縮小されていくのでした。その内理由は忘れましたが餅つき大会そのものが中止になった年がありました。そうしたら次の年に不吉な出来事起きたので翌年からは縁起物として再度復活したのです。

それから開催場所は院内を転々としたのですが、ここ数年は現在の場所に定着し、今を迎えるに至っています。以前は長期の入院患者さまが多く、年末年始も外泊せずに正月を病院で迎える方が多くみえたため、せめてお正月くらいは餅を食べていただき、正月らしい雰囲気味わっていただくの気持ちから始まったものだと思います。

今では四季折々、季節感を味わっていただくイベントの企画も多くなりましたが、行事への若い世代の職員達の思い入れは以前に増して強い意欲を感じる今日この頃です。



### 編集後記



早いものでもう一年が過ぎてしまいました。去年は新館の建築・改修、それに伴う病棟機能の見直し、患者さまの引っ越し等々、またそれに伴う新しい仕組みへの習熟、事故防止等々職員一同ただただ慌ただしく夢中で療養環境の整備に重点を置いて走って参りました。これからは中身の充実だと職員一同肝に銘じてこの一年頑張っていこうと思っています。

またこの季節がやってきました。勇気を育み、先頭に立って幸せに向かう、今年のカラーはミルク色・黄色で決まり。まだまだ明るい話題が少ない昨今、せめて皆さまに元気だけでもお届け出来るように、このラッキーカラーで本来ある自らの優しさを引き出し、環境や自分自身の改革に必要な勇気の支えになってくれるよう願っています。

# 性格と医学

最近、ABO式血液型と性格の相関についての話題がとんと聞かれなくなりました。

老年科部長 河野 和彦

日本人の6割も占めるA型は渡辺美智雄氏だけだったという伝説があります。どうもその時以来O型は人心の把握、AB型は知性のキレで天下をとるといって『定説』が誕生したようでした。A型は『優秀な参謀』どまりで天下はとれないのでしょうか。

それでも職場で几帳面な人がいれば、やはりA型のだねと言われたり、マイペースで事を進める人はB型だなんて言われます。真偽のほどは別として、日本人が血液型と性格を結びつける慣習は定着した感があります。

このことは誰でも知っていることなので、血液型の話が出ると仕事で初めて会った人とも妙に盛り上がりたりできる便利な話題と言えましょう。例えば今、ニューヨークで日本人商社マンがアメリカ人と商談を始めたいという時に、ヤンキースの松井選手の話すればトントン拍子に話が進みそうです。そんな魅力が血液型にもあるのでしょうか。しかし、血液型による体質の違いは間違いなく存在するのです。いまだにA型とO型での疾患頻度の違いについて世界から論文が発信されています(欧米ではB型、AB型は稀なので研究対象外)。例えばA型はO型の人に比べ癌が転移しやすいとか心筋梗塞が多いといった事実が証明されています。

『特命リサーチ200X』というテレビ番組で、興味深い考察がされていました。古代からA型の人間は病気になるやすいので、病気になるないように日ごろから節制して神経質になったのではないかと。だからA型が几帳面だというのはあながち非科学的なことではない、と云うことでした。なるほど非科学的と言われたこともその気になって研究すれば、何らかの結論に至るのだなあと感心しました。私は16年ほど前に矢田部ギルフォード性格検査と血液型のアンケートを800人以上の方に答えていただき、巷で言われていたとおりAB型は情緒不安定(エキセントリック)だという傾向が出てきました。他には、医師、職人や長生きする人にはB型が多いように思ったのですが、小規模な調査ですから結論は保留です。しかし、その結果を見て今までつきあった友人たちの性格と血液型を思い出しは、『やはり』と思い出しほくそ笑むのでした。

能見氏の著書によると、中曽根内閣の大臣たちはほとんどがO型、4人がAB型で、片や

たという伝説があります。どうもその時以来O型は人心の把握、AB型は知性のキレで天下をとるといって『定説』が誕生したようでした。A型は『優秀な参謀』どまりで天下はとれないのでしょうか。

昨年秋には『県によって性格が違う』という本まで書店に並んでいました。タモリに『ニャーニャー』と馬鹿にされた名古屋ですが、やはり県別の本や『佐賀県』を一躍有名にさせた『はなわ』の唄にも当然のように愛知県が取り上げられました。言うまでもなく、派手な結婚と対象的な日常でのケチぶり、味噌煮込みで代表される濃厚な甘辛味などが馬鹿にされる形で語られてきました。しかし、不況時代に注目されたのが愛知県の経営方式でしたし、百歳双子のきんさんぎんさんも当地のイメージをよくした代表だったと思います。

医療の場で昔から私が感心しているのは、看護士長にまで登りつめる女性は圧倒的に九州出身者が多いということです。海南病院も共和病院もそうです。彼女たちは、いじめやストレスに負けて退職することは少なく、最後まで仕事をやりぬきます。とくに愛知県は九州出身者が多いのでよくわかります。

豊橋の某病院には、かつて九州から来たおぼっちゃま先生がいて、威張り散らすので不評でした。九州出身の看護士さんが言うには「九州男児というのは女が男の立場を立てているだけで本当は弱い」のだそうです。ですから本州の男性と九州の女性はうまくいくのですが、その逆の組み合わせは最悪だとのことでした。

こういったことは、ほとんどが遺伝子よりも環境で形成されたものなのでしょう。しかし、うつ状態の夫婦から明るい子が生まれるとは考えにくく、私はやはり明るい子供に育てほしいと願い、家庭でもボケ役を演じては子供を笑わせるようにしています。笑うことは免疫力を高めることが最近の研究でも証明されました。だから私は講演でなるべく聴衆を笑わせようと務めています。そんなサービス精神は、私のA型から来ているのでしょうか？



## 共和会理念

### 『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

## 基本方針

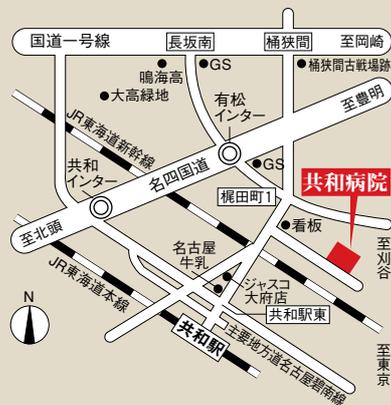
～当院をご利用の皆様へ～

わたしは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、治療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報保護されます。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

**俳句コーナ**

詩を書かん  
君墨を磨れ  
今朝の春 漱石

名譽院長  
加藤邦之助

明治三十年、結婚して半年の最初の正月の句です。十四才から漢学を学び中国の漢詩の素養のあった漱石の小説にはやたらに難しい漢語が用いられて現代の若い人達には判りにくい処があるので、この句の詩というのも漢詩の書き初めのことを云うのです。新婚間もない妻に静かに硯の墨を磨らしているという、誠に出だたくも和気藹々とした三が日の様子が出ていてはありませんか。そして磨り立ての新しい墨の香に新妻の初々しい暗れ姿が匂ってくるではありませんか。当時、旧制五高の先生で元旦に来客が大勢あつて、ご馳走が不足したので漱石に叱られて夜十二時までかかって奥さんが金団(きんとん)作りをしたという話が伝わっていますが、この句とは随分情景が違いますね。